

H.30
(2018年)

五 月

(今月の掲示板)

真宗大谷派・願成寺

苦惱が生まれる源(もと)は、私の中に隠れている

『苦しみ・悩みは、貴方の中から生まれる』と仏教は説きます。私達は『彼奴が悪い・何々が悪い』などと、人や外に目を向けるが、『自分を第三者の立場から厳しく見直せ』と教えます。私の顔は鏡で見えるが、心の中まで見えません。『夏蝉・春秋を知らず(中国の詩人・莊子)』『人間も仏教の世界があるのを知らず、苦惱の本当の原因が分からず生きている』と親鸞聖人は説かれました。

『苦労・嫌な事は避け、楽に生きたい』と思つてきたが、『人生は苦(思)い通りにならない』です。仏教では『諸行無常』全てのものは変化し続ける・諸法無我』全てのものには、永久に変わらない実体(我)はない』と説きました。が、『勝ち負け、役に立つ立たないの基準があり・いつもでも私は変わらない』と思い込み、自分で苦惱を作つていたとの自覚めが大切です。また、過去と未来を気きにせず・今までの事を熱心にせよ、と仏教は説きます。

主な参考資料

(1)土屋昭之(著)『少年少女の仏教一生きるって、なに?』、朝日新聞社、P.98~(2004年)。

(2)長田幸康(著)『知識ゼロからの仏の教え』、幻冬舎、P.42~67(2008年)。

(3)川村妙慶(著)『人生が変わる朝靄鸞のことは』、講談社、P.14~45(2016年)。